

幼児期の相互交渉の形成について — 保育園4才児の場合 —
 愛知女子短大 岡野雅子

目的 前回に引き続き、4才児の友だち関係の形成のすじみちとそのダイナミズムの変化について明らかにする。また、4才で初めて子ども集団への日常的参加(入園)をした場合の相互交渉の形成について3才で入園した場合と比較検討し、さらに、前回と同一対象児も観察することによって保育園生活一年の経過が相互交渉の形成においてどのような変化をもたらしたかについても考察を試みる。

方法 対象児は公正保育園のa,b,cに通園しているB児(女),K児(女)とC児(女),Y児(男)とN児(男),A児(男)である。B,C,N児は新入園児であり、K,Y,A児は前年より在園している。Y,A児は前回資料と同一児である。(前回資料中のM児は転居のため継続観察不能)新入園児の入園後1ヶ月半を経過した時点から1ヶ月半にわたり各々の対象児の該当保育園において自由に遊んでいる場面での他者との関係について週/回30分間観察記録した。

結果 ①全体 他児との接触数は3才児より1.7倍に増加。相互作用の長さはほぼ同じ。言語による接触づけが著しく増加。②在園児と新入園児の比較 新入園児の方が他児との接触が少なく、他児からの接触づけが少ない。③4才新入児と3才新入児(在園児の入園時)の比較 4才新入児の方が他児との接触が多く、自分から接触づけを行なう割合が高い。④在園児の3才入園時と1年経過後の比較 他児との接触は1.9倍に増加。⑤性差 男児の方が他児との接触が多く、自分から接触づけを行なう。男女とも同性との接触が多いが男児が男児と接触をもつ割合はより高い。男児→女児は言語により女児→男児は行動による接触づけが多いが、男児には女児からの模倣・行動による接触づけは受信されにくい。